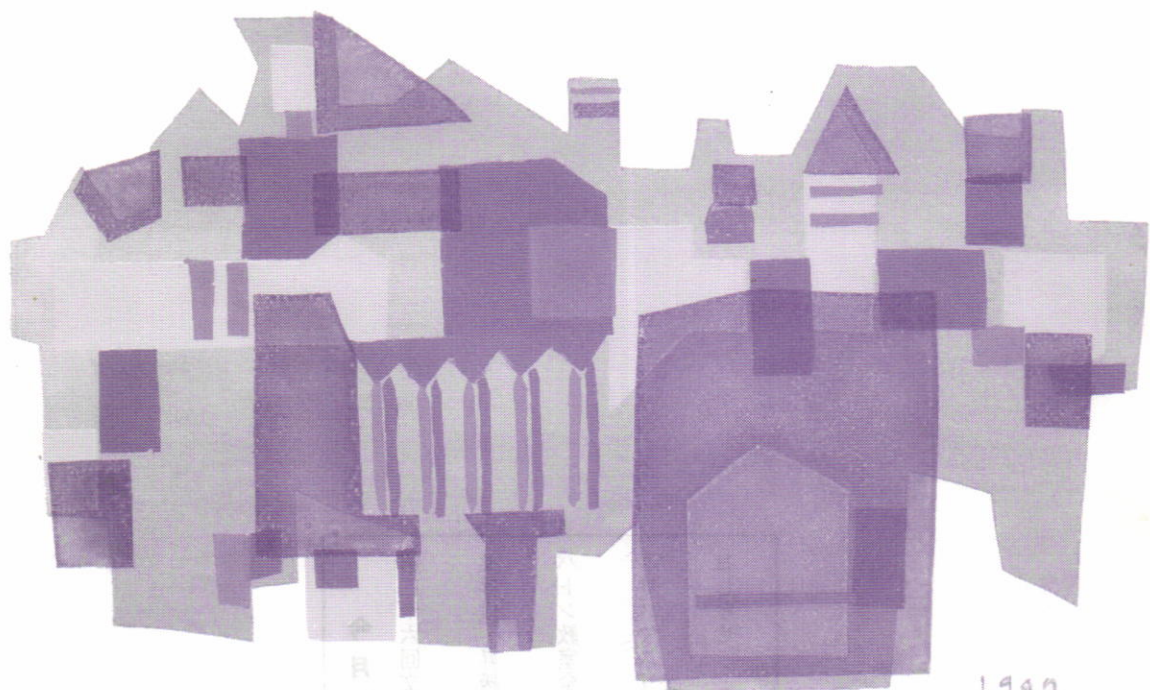


大木錬成館展より



1999
N. TSURUTANI



11.12月・365号

月刊 剣道雑誌

今月号 目次

| | |
|-------------|-----|
| 第二十六回文化祭 | 2 |
| 柔昇段・昇級式 | 2 |
| バトン教室全国大会 | 4・3 |
| クリスマスリースづくり | 5 |
| おしらせ | 5 |

第26回文化祭

11月2日(日)、恒例となった文化祭が行なわれました。

作品展示については、二ヶ月前より、各教室において準備してきました。学生書道、一般書道、絵画、華道と、百点余の作品が展示されました。

特別出品として、鶴谷画伯の画業三十年を記念して、大作の展示がありました。ニューヨーク時代の具象画(人物)も出品して下さり、初めて見る人がほとんどでした。

又、福島理事は、古文書について研究しておられますが、江戸時代の習字の手習いについて当時の作品や、手紙の展示があり、興味深いものとなりました。

実技発表は、午前にコーラス、ギター、詩吟の発表、午後より、バトン、こども英語、かるた、柔、と発表しました。午後の子ども達の発表では、家族の方が多数見に来て下さり、とてもにぎやかでした。

文化祭作品について

「日本は一見豊かだが、精神的には貧しいのではないか。もつと家族を大事にしなれば。」
一九八一・八二・八四年に訪日の、マザーテレサの言葉より

作品づくりのテーマを決めようとしていた矢先、マザーテレサが亡くなりました。マザーテレサが指摘したとおり、経済優先、物質優位となった現代社会では、心の豊かさを忘れてしまっているようです。

「心の豊かな社会で毎日を過ごしたい」という私たちの願いは変わらないのですが、どうすれば、心が豊かになれるのか、もつと真剣に考えてみようということから、テーマを決めました。

「心」について、好きな言葉や、こんな「心」の持ち主になりたいと思う言葉作品にしました。子供たちとともに、「心」について考えてみたい、と私たちは思い、文化祭の作品を仕上げました。

平成九年度倫心流柔術昇段・昇級証授与式



十月二十五日、鶴谷館長、職員、柔会員家族の方々にも出席して頂いて、盛大に行なわれました。

道場神棚には、米、塩、水、酒、昆布、するめと、黒帯を三宝にのせ奉納しました。参加者全員で大きな声で君が代を斉唱、続いて、祝詞奉上、玉串奉奠、と神事が厳粛に行われました。

鶴谷館長より、昇段した立野三雄君に、段証と黒帯、また昇級者七名に級証、および色帯が手渡されました。

立野君が鶴谷館長に、今後とも錬成館で自らを鍛え、日本の将来を担う少年達の健全育成に寄与し、地域社会に貢献できるように精進しますと、謝辞を述べました。立野君の今後の活躍を祝して各師範が激励の言葉を贈りました。

その後、昇段者と昇級者が、日頃訓練した柔の技を披露しました。

最後に、夕方の忙しい時間に出席して下さった皆様に、衷心より厚くお礼申し上げます。

全国大会

教室レポート 2
おめでどう!

バトン教室全国大会初出場

とうとう、夢が実現しました。十月二十六日、福井県営体育館で行われた、第九回北陸大会において、見事、全国大会出場団体に推薦されました。

平成四年、五年、六年と、マーチングバンドとして出場していましたが、七年よりバトン教室単独で、バトントワリングに挑戦していました。

今回は、第二十五回記念全国大会ということで出場枠の変更があり、大人のチームと分かれたので、私たちにとっては、大きなチャンスとなりました。

北陸大会は、全国大会出場をかけての挑戦ですから、子どもたちも意気込みが違いました。

全国大会の推薦団体は、閉会式において発表されます。閉会式が喜びの場となるか、試練の場となるか、子どもたちも、家族も、指導者も、その時を待っていました。そして、その瞬間、大きな歓声が会場に上がりました。



北陸大会の感想

四年 森本 愛未

けっか発表で、あゆみちゃんといっしょに手をあわせていました。しんさ員の人が「フェスティバル・ジュニア一般の部では、南星中学校と伏木錬成館」と、いいました。

その時は、信じられませんでした。先生の方を見ると、なみだが出ていました。私は、一番うれいのは、先生だと思えます。これまでの県大会の練習、北陸大会の練習も、会社が終わってつかれているのに、私たちのためにきてくれたから、その分のなみだが出たと思います。

塩原先生や、こくさい大ふぞく高校の人も喜んでくれました。

六年 上 律子

十月五日の県大会のきんちゅうをのりこえむかえた北陸大会この北陸大会には、夢の全国大会出演がかかっていたので、練習も、つまさき、指さき、しせいをていねいになおして、少し

ずつ、全国大会へと近づいていきました。

学校祭の練習もあり、おそくなつてもバトンに行き、一生けんめいがんばりました。そして当日、いっしょに出る団体が、はでな衣裳なので心配になりました。でも、せいっぱいおどりました。

そして、発表。私はなな番、なな番、と祈るような気持ちでした。

「ジュニア一般の部しち番...」しち番の言葉で、私は、（あー、やつぱりだめだったか...）と思いました。でも、よく考えてみるとしち番というのはなな番のことなんだ！

やったー！

私は、アテンションをしながら、喜びをぐつとこらえていました。

六年 本林 恭子

十月二十六日(日)、運命の時がやってきた。県大会のときよりも練習は厳しく、先生も角を出していた。先生によると、石川は一輪車を使って演出しているし、北陸大会にどうやってくるか、と言われていたから、どう